

幸せはどこにある

広島県 宝泉寺 住職 野村俊英

このほど、メディアなどで「世界一幸せな国」と言われている国の、幸福度が下がったというニュースが流れました。その理由は、テレビやインターネットの普及で情報量が増え、人と自分を比較するようになったからではないかということでした。

便利になればなるほど「幸せ」を感じる事ができなくなるという現実、私たちの思う「幸せ」とは、どんなものでしょうか。私たちは物を事を他のものと比べ、それを基準に良いか悪いかを相対的に捉えてしまいがちです。周りの状況で自分が変わるわけではないのに、本来の自分ではなく、他人との比較で自分をはかるのです。

他人の良いところを見て、自分はもっと頑張らなければと思い、また他人の悪い所をみて、自分はそれよりもマシだと考えたりします。そして、特別なこと、非日常的な成功体験、宝くじが当たるようなことを「幸せ」だと思いがちです。

私はこの冬、師匠である父を亡くしました。師匠は多くを話すこともなく、日々の行事、朝のお勤めで、香を焚き、お茶を供え、鐘をつくなど、毎日同じように過ごしていました。特別なことはなく、一

つ一つの作法を 黙々と行う人でした。私にとってそのような師匠の姿は、日常の「あたりまえ」の風景でした。

幼いころから、私はその「あたりまえ」の行事を繰り返すより、今日より明日、明日より明後日と、効率的に方法を変える方がよいと思っていました。しかし、師匠は晩年、歩くことがやっとという状態になっても、亡くなる数週間前までそのスタイルを変えることはありませんでした。今思えば、そのような日常の中にいられたことは私にとって本当に「幸せ」であったと思います。また、出来ればその「幸せ」に早く気づきたかったと思います。

大本山永平寺を開かれた道元禅師さまは、「あたりまえ」の中に仏法の神髄があり、「あたりまえ」に、「今」、「ここ」で、一つ一つを丁寧に行い、その有り難い事象に気づく大切さを説かれています。

私は師匠を亡くし、「あたりまえ」の風景がなくなりました。今は、毎日師匠と同じようにお勤めをし、その「あたりまえ」だった風景の有り難さをしみじみ感じています。私は今、師匠から「幸せ」は、「今」、「ここ」、「私の目の前」にある事を教えられています。